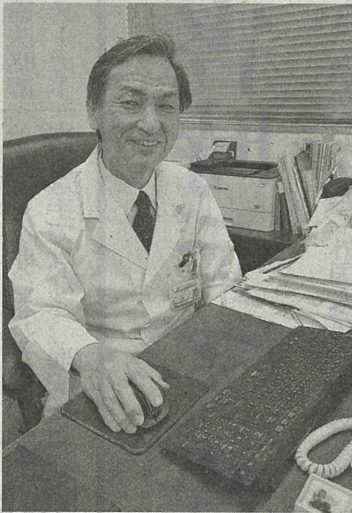


損傷部位 高精度で修復

病院の実力「形成外科」
医療機関別2022年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	主な形成外科手術 (件)	外傷 (件)	先天異常 (件)	腫瘍 (件)	悪性腫瘍 (件)
大阪府					
済生会中津	1370	272	30	794	106
済生会野江	1370	246	12	824	51
大阪労災	1102	144	8	798	139
八尾市立	1093	309	30	636	19
大阪医科薬科大	1049	118	82	767	96
関西医大	825	181	98	436	48
近畿大	801	308	35	363	14
済生会吹田	766	111	20	538	42
大阪赤十字	686	88	22	408	34
大阪急性期・総合医療セ	675	94	22	479	64
市立岸和田市民	666	47	6	558	52
箕面市立	661	50	10	571	56
大阪市立総合医療セ	648	47	311	186	22
市立池田	621	43	8	549	44
守口敬仁会	575	36	10	489	31
市立貝塚	565	67	30	439	24
岸和田徳洲会	562	87	1	424	24
大阪公立大	556	43	41	363	44
市立東大阪医療セ	513	78	18	365	53
堺市立総合医療セ	484	80	19	319	27
北野	471	100	21	312	27
関西電力	469	195	0	262	8
関西医大総合医療セ	469	88	5	207	48
淀川キリスト教	466	35	72	284	47
石切生喜	382	16	3	311	14
JCHO大阪	352	64	7	229	35
住友	339	26	6	254	25
府中	324	57	4	214	12
運動器ケアしまだ	303	166	4	133	2
日本生命	279	32	0	237	18
大阪国際がんセ	171	0	0	164	0
富永	16	0	0	7	1

「JCHO」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター。



「できものや傷痕で気になることがあれば、気軽に相談ください」と話す上田科長（高槻市で）

全国の調査結果は20日の「安心の設計」面に掲載しました。

形成外科

今回は「形成外科」を取り上げる。損傷した体の一部を高い精度で修復する「マイクロサージャリー」の手術を駆使し、幅広い病気に対応する大阪医科薬科大病院（高槻市）の上田晃一・形成外科長に、治療法について聞いた。
(藤沢一紀)

上田 晃一 形成外科長

病院の実力

*大阪編190

顕微鏡を見ながら細い血管や神経を縫合する手技です。形成外科医は習得が必須で、若い医師は鶏の手羽先の血管を使って縫合の訓練をし、技術を磨きます。――外傷で目立つ症例は。

工事現場での転落などによる組織の損傷や骨折が多いです。スポーツ外傷ではボールの直撃や選手同士の接触で顔の骨や神経が損傷したケースが目立ちます。――乳がん手術後の乳房再建については。患者自身の背中中の筋肉やおなかの脂肪など自家組織を使う方法と、シリコーン製の人工乳房を使う方法があり、いずれも保険適用されます。自家組織の移植では組織を採取した部位に傷痕が残る一方、自然な形や柔らかさを保てます。人工乳房は他の部位に傷を作らなくてはなりません。

損や感染のリスクがあります。――まぶたが垂れ下がる「眼瞼下垂」の治療は。まぶたを上げる筋肉の衰えなどによって視界が狭まる病気で、高齢者に目立ちます。目を開きにくくなると余計な力が加わり、頭痛や肩こりも引き起こします。まぶたの筋肉を糸で縫い、余分な皮膚を切除する手術で改善できます。――大阪医科薬科大病院の特徴は。先天異常である口唇裂の乳児から、皮膚がんの90歳代の患者の再建手術まで、幅広く対応しています。スタッフを専門ごとに先天異

皮膚科、整形外科とも連携

形成外科では、体の表面の傷や変形をきれいに治し、機能の回復も目指す。皮膚科や整形外科などと連携することも多い。――「外傷」には、けがややけどがある。口唇口蓋裂や耳の変形などの「先天異常」では、成長にあわせて手術を行う。

「腫瘍」は、ほくろや粉瘤などの良性腫瘍を取り除く手術が多い。皮膚などにできるがんの切除や乳房再建、頭頸部がん手術後の舌や顎の修復も手がける。床ずれなど皮膚の深い所まで傷が及んだ「難治性潰瘍」や、ケロイドなどの「瘢痕」の治療にもあたる。血管腫などのあざにはレーザー治療も用いる。

常、マイクロサージャリー、乳房再建、シミュレーション外科の4班に分け、互いに連携しています。若い医師は各班を回って様々な症例を経験し、研さんを積み重ねます。一般的な外傷ややけど、顔面骨折は全班で対応しています。――シミュレーション外科班の担当領域は。血管や神経、筋肉が入り組んだ顔などの部位の修復を行っています。現実の風景に画像や情報を重ねて表示する「AR（拡張現実）」の技術を活用し、患者の神経や筋肉などの構造を確認してから手術に臨みます。